

くろしお協力隊に聞く



【今月の担当者】
地域おこし協力隊
(農業公社支援)
小田 良和

Q 協力隊の任期もあと少し。どう活動していく予定ですか？

A 卒業に向けて私が行っている業務の手順書を作成したり、ホームページやSNSの更新は変わらず続けていきます。現在、8月末に東京都で開催される「新・農業人フェア」への出席を検討していて、1人でも2人でも、来年再来年の農業研修生を呼び込むことができればと思っています。また、卒業後はリモートの仕事などを行いながら、ゆくゆくは地域に根付いた活動ができればと思っています。中高生に家や学校とは別に第3の居場所を提供したいと考えているので、協力隊の仲間が築130年の古民家を改修して作ったレンタルスペースを利用して何かできないかなとタイミングをうかがっています。

Q 3年間を振り返ってみてどうですか？

A あっという間に過ぎましたね。残りの任期もあっという間に過ぎるんだろうなと思います。着任当初は新型コロナウイルス感染症が流行している真っ最中で、思うように活動できない時期が1年半ほど続いて、仕事以外の時間は家からほとんど出ることがなく、「ここで暮らしていけるかな」と不安に思っていました。しかし、新型コロナウイルス感染症が落ち着いて迎えた3年目は、協力隊の仲間と一緒に計画を立てて活動することが増え、知り合いも増えてきて、高知の生活になじんで落ち着いてきたように思います。3年目は一番充実した時間を過ごせていますね。念願だった柏島のダイビングにも、今年のゴールデンウィークにようやく行くことができました。協力隊卒業後も焦らず無理せず、腰を据えて黒潮町で暮らしていきたいです。



柏島でダイビング

協力隊から一言！

協力隊は卒業しますが、これからも黒潮町で暮らしていきますので、皆さんよろしくお願いします。

Kramer's Corner クレマのコーナー



今月のテーマ

松原と海辺を走る パークラン parkrun

土曜日の朝、入野海岸の辺を散歩すれば、浜辺に立てられた旗や松原を楽しく走る人々を見かけるかもしれません。実は、その人たちは黒潮町の宮川公園で毎週開催されるparkrunというイベントに参加しています。parkrunとは、毎週土曜日朝8時に公園などで5kmをランニングやウォーキングする、またはボランティアをする無料のコミュニティイベントです。ちょうど20年前にイギリスで発祥し、今では23カ国に広がり世界中で500万人以上のパークランナーが登録しています。

黒潮町のparkrunは南アフリカ出身のALTのティモニークさんの「母国でも参加していたparkrunが、黒潮町でできたらいいな」という思いから始まりました。そのアイデアをきっかけに、黒潮町の「宮川公園parkrun」が生まれ、ボランティアとランナーの皆さんのおかげで今年の6月で1周年を迎えることができました。

宮川公園parkrunは名前の通り宮川公園(入野の浜への入り口の辺)でスタートし、入野松原のサイクリングロードに沿って道の駅ピオスおおがたの手前まで続きます。松の木陰に吹く優しい潮風と青く広がる海の眺めは素晴らしく、間違いなく世界で最も美しいparkrunコースの1つだと思います。走ってもいいし、のんびり歩いてもいいし、参加はいつも無料。また、コースガイドやタイムキーパーなど、さまざまな役割のボランティアもできます。それにほかの参加者と交流することができ、友だちを作る絶好の機会でもあります。僕もよくボランティアとして出ますので、興味のある方はぜひ土曜日の朝宮川公園に寄ってみてください！



1周年記念のparkrunに参加した皆さん

今月の使える！英語

Happy anniversary!

「記念日おめでとう！」という意味で、結婚記念日や開業記念日など、いろいろな記念日に使える便利なフレーズ。

